

提出日： 年 月 日

病床機能に係る病院開設等計画書

■医療機関の概要

開設者	1) 医療法人社団稲仁会 2) 医療法人社団利信会
施設名	1) 旭川脳神経外科循環器内科病院 2) 上村産科婦人科医院
所在地	1) 旭川市 10 条通 21 丁目 2-11 2) 旭川市末広東 1 条 3 丁目 1-5
標榜科目	1) 脳神経外科、循環器科、呼吸器科、整形外科、リハビリテーション科、麻酔科 2) 産科、婦人科

■病床整備計画の概要

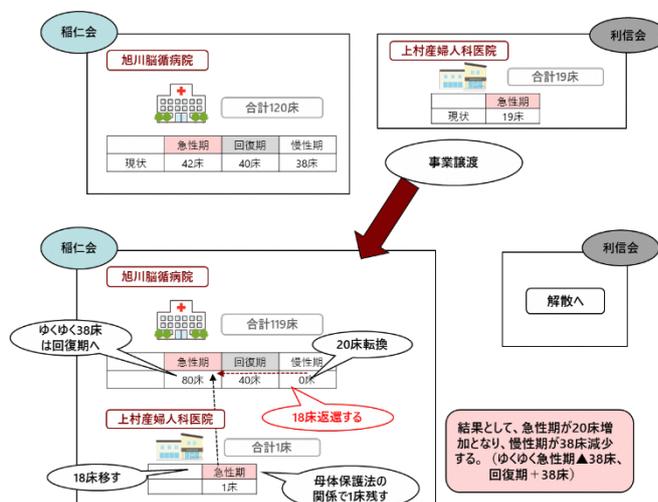
計画の種類	<input type="checkbox"/> 開設、病床設置 <input type="checkbox"/> 移転 <input checked="" type="checkbox"/> 開設者変更 <input checked="" type="checkbox"/> 法人内病床移動 <input checked="" type="checkbox"/> 病床機能変更 <input type="checkbox"/> 再稼働 <input type="checkbox"/> その他()
病床機能	<p>【変更前】</p> <p>1) 高度急性期 床、急性期 42 床、回復期 40 床、慢性期 38 床 2) 高度急性期 床、急性期 19 床、回復期 床、慢性期 床</p> <p>-----</p> <p>【変更後】</p> <p>1) 高度急性期 床、急性期 80 床、回復期 40 床、慢性期 床 2) 高度急性期 床、急性期 1 床、回復期 床、慢性期 床</p>
開設（変更）予定日	第 1 期：令和 4 年 12 月 1 日
申請等の提出予定月	第 1 期：令和 4 年 10 月

【計画の内容】

計画：令和 4 年 12 月 1 日

上村産科婦人科医院を医療法人社団稲仁会として開設。

一般病床を 18 床旭川脳神経外科循環器内科病院へ移動し旭川脳神経外科循環器内科病院の療養病床 18 床は返還。同時に旭川脳神経外科循環器内科病院の療養病床の 20 床を一般病床へ転換。



別添、病床機能転換計画書も参照

■地域医療構想の考え方を踏まえた当該病床機能が必要と考える理由

【旭川脳神経外科循環器内科病院の概要】

旭川脳神経外科病院は 2015 年 7 月より循環器内科を開設し、2016 年 4 月に旭川脳神経外科循環器内科病院へと病院名を改め、単科病院ではなく、血管治療に重きを置いた急性期病院へと変革を遂げており、5 疾病 5 事業のうち、脳卒中、急性心筋梗塞、救急医療の一翼を担っていると自負しております。

中でも「救急を断らない」をスローガンに、救急受け入れ数は飛躍的に伸びており、救急車受入台数は年間 1,300 件を超し、救急の外野手としてスタッフ一丸となって積極的に医療活動を行っており、医療連携による受入れも枠を拡大し地域の医療連携に協力しております。

また、超高齢者の内科重症例に対しても広く診療を行っており、退院後の生活についても ADL 評価や介護保険等、関わっていくことが多くなっております。

【整形外科の開設】

上記にある通り、救急受入れ台数は年間 1,300 件を超え、旭川市における転院搬送を除く救急搬送件数の約 1 割を担っております。予てより整形外科の開設による外科、外傷等の救急受入れを非公式ではありますが前旭川市医師会長や消防本部より熱望されておりました。

この 2022 年 7 月、市内他医療機関より整形外科チームで医師 5 名、看護師・コメディカル 35 名の受入れが決まり外科・外傷救急の受入れ体制が整っております。異動元となる医療機関において救急体制が取れなくなったため、当院において外科(外傷)の救急受入れ、外科当番病院の実施により一層の一次救急医療に取り組んでまいります。

【急性期病床の必要性】

当院の入院患者内訳では血管系の救急が多いことから中等度～重症例が多く、日夜を問わず入院が必要な状況ですが、新型コロナ感染症の蔓延、整形外科の拡充により急性期病床が不足している状況が発生しております。受入れ病床の不足により外科(外傷)の救急受入れ、外科当番病院実施までには急性期病床の拡充が必要となっております。

【医療圏における病床】

当該病院が所属する上川中部医療圏では、将来的に回復期病床機能が 600 床弱不足となる見込みで、当院では 2025 年までに地域の必要数を確保するため、サブアキュートを軸にした回復期も拡充したいと考えております。将来的には今回転換した急性期病床の一部を使用し、地域包括ケア病床(回復期)の展開を目指しておりますが、足元の救急患者の受入れ、チーム医療を充実させ地域の救急を守るためにも、上村産婦人科医院よりの病床の移動及び旭川脳神経外科循環器内科病院内での一部一般病床への転換を了承いただきたく、ご協議をよろしくお願いいたします。

急性期の拡充で、救急受入、整形、積極的な手術、運動器リハの充実を行うことにより、回復期のコメディカル(特に今厚労省が勧めている回復期への栄養面での強化、栄養士の参画や在宅復帰後の訪問リハ、在宅リハ)の推進準備を行うことも可能となると考えております。

当院では、急性期、救急、回復期と幅広い医療ニーズに対応し、地域医療への貢献を目指します。